



はじめに

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere 6.2

NetApp
December 09, 2025

目次

はじめに	1
導入の概要	1
既存ユーザ向けの導入ワークフロー	1
SCVの導入要件	2
導入の計画と要件	2
ONTAP Privilegesが必要です	7
vCenter Privilegesの最小要件	8
Open Virtual Appliance (OVA ; オープン仮想アプライアンス) のダウンロード	9
SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入	10
導入後に必要な処理と問題	14
導入後に必要な処理	14
トウニユウニカンスルモンタイ	14
認証エラーを管理します。	14
SnapCenter Plug-in for VMware vSphereをSnapCenter Serverに登録	15
SnapCenter VMware vSphere Clientにログインします。	16

はじめに

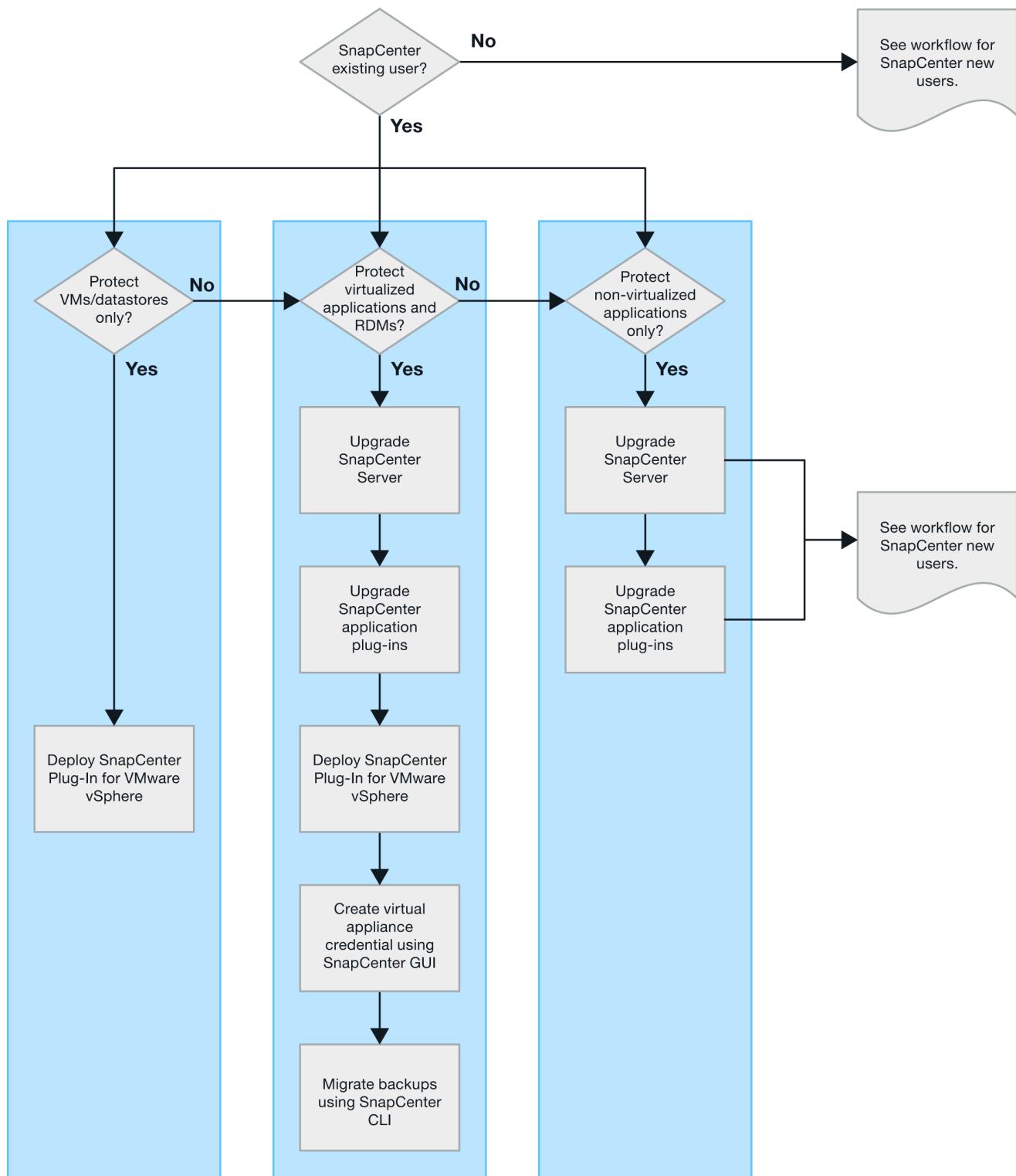
導入の概要

SnapCenterの機能を使用して仮想マシン上のVM、データストア、アプリケーションと整合性のあるデータベースを保護するには、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入する必要があります。

既存のSnapCenterユーザは、新しいSnapCenterユーザとは別の導入ワークフローを使用する必要があります。

既存ユーザ向けの導入ワークフロー

SnapCenterユーザでSnapCenterバックアップを作成している場合は、次のワークフローを使用して作業を開始してください。



SCVの導入要件

導入の計画と要件

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere (SCV) の導入を開始する前に、次の要件を理

解しておく必要があります。

ホストの要件

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere (SCV) の導入を開始する前に、ホストの要件を確認しておく必要があります。

- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereは、WindowsシステムとLinuxシステムのどちらのデータ保護に使用されているかに関係なく、Linux VMとして導入されます。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereをvCenter Serverに導入する必要があります。

バックアップスケジュールはSnapCenter Plug-in for VMware vSphereが導入されているタイムゾーンで実行され、vCenterはデータを配置されているタイムゾーンでレポートします。そのため、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereとvCenterが異なるタイムゾーンにある場合は、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereダッシュボードのデータがレポートのデータと同じでない可能性があります。

- 特殊文字を含む名前のフォルダにSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入しないでください。

フォルダ名には、\$! @ # % ^ & () _ + {} ' ; * ? " <> | という特殊文字は使用できません

- vCenter Serverごとに、一意のSnapCenter Plug-in for VMware vSphereインスタンスを個別に導入して登録する必要があります。
 - 各vCenter Serverは、リンクモードかどうかに関係なく、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの個別のインスタンスとペアリングする必要があります。
 - SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの各インスタンスを個別のLinux VMとして導入する必要があります。

たとえば、6つの異なるvCenter Serverインスタンスからバックアップを実行するとします。その場合は、6つのホストにSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入する必要があります、各vCenter ServerをSnapCenter Plug-in for VMware vSphereの固有のインスタンスとペアリングする必要があります。

- VVOL VM (VMware VVOLデータストア上のVM) を保護するには、最初にONTAP tools for VMware vSphereを導入する必要があります。ONTAP toolsは、ONTAPおよびVMware WebクライアントでVVOL用のストレージをプロビジョニングおよび設定します。

詳細については、ONTAP tools for VMware vSphereのドキュメントを参照してください。さらに、以下を参照してください ["NetApp Interoperability Matrix Tool"](#)ONTAPツールでサポートされているバージョンに関する最新情報。

- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereでは、Storage vMotionをサポートする仮想マシンの制限により、共有PCIデバイスまたはPCIeデバイス (NVIDIA Grid GPUなど) のサポートが制限されます。詳細については、ベンダーのドキュメント『VMware導入ガイド』を参照してください。

◦ サポート内容：

リソースグループの作成

VMの整合性を伴わないバックアップの作成

すべてのVMDKがNFSデータストアにあり、プラグインでStorage vMotionを使用する必要がない場合の、VM全体のリストア

VMDKの接続と接続解除

データストアのマウントとアンマウント

ゲストファイルのリストア

- サポートされていないもの：

VM整合性を維持したバックアップの作成

VMFSデータストア上に1つ以上のVMDKがある場合のVM全体のリストア

- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの制限事項の詳細については、を参照してください ["SnapCenter Plug-in for VMware vSphere リリースノート"。](#)

ライセンス要件

次のライセンスを提供する必要があります。	ライセンス要件
ONTAP	いずれか：SnapMirrorまたはSnapVault（関係のタイプに関係なくセカンダリデータ保護用）
その他の製品	vSphere Standard、Enterprise、またはEnterprise Plus Storage vMotionを使用してリストア処理を実行するには、vSphereライセンスが必要です。vSphere EssentialsまたはEssentials Plusライセンスには、Storage vMotionは含まれていません。
プライマリデスティネーション	SnapCenter Standard：VMware SnapRestoreを介したアプリケーションベースの保護を実行する場合に必要：VMwareのVMおよびデータストアのみ FlexCloneのリストア処理を実行する場合に必要：VMwareのVMおよびデータストアのみのマウント処理と接続処理に使用
セカンダリデスティネーション	SnapCenter Standard：VMware FlexCloneを介したアプリケーションベースの保護のフェイルオーバー処理に使用：VMwareのVMおよびデータストアのみでのマウント処理と接続処理に使用されます

ソフトウェアのサポート

項目	サポートされるバージョン
vCenter vSphere	7.0U1以上
ESXiサーバ	7.0U1以上
IPアドレス	IPv4、IPv6
VMware TLS	1.2、1.3
SnapCenterサーバ上のTLS	1.2と1.3 SnapCenterサーバは、VMDKのデータ保護処理を介してアプリケーション用のSnapCenter Plug-in for VMware vSphereと通信するためにこのプロトコルを使用します。

項目	サポートされるバージョン
VMwareアプリケーションvStorage API for Array Integration (VAAI)	SnapCenter Plug-in for VMware vSphereは、この設定を使用してリストア処理のパフォーマンスを向上させます。また、NFS環境でのパフォーマンスも向上します。
VMware向けONTAPツール	SnapCenter Plug-in for VMware vSphereは、これを使用してvVolデータストア（VMwareの仮想ボリューム）を管理します。サポートされているバージョンについては、 "NetApp Interoperability Matrix Tool" 。
NetApp ONTAPストレージ向け Amazon FSxN	9.10以上

サポートされているバージョンに関する最新情報については、["NetApp Interoperability Matrix Tool"](#)。

NVMeoverTCPオヨヒNVMeoverFCフロトコルノヨウケン

NVMe over TCPおよびNVMe over FCプロトコルをサポートするための最小ソフトウェア要件は次のとおりです。

- vCenter vSphere 7.0U3
- ESXi 7.0U3
- ONTAP 9.10.1

スペース、サイジング、拡張の要件

項目	要件
推奨CPU数	8コア
推奨RAM	24 GB
SnapCenter Plug-in for VMware vSphere、ログ、MySQLデータベース用の最小ハードドライブスペース	100GB

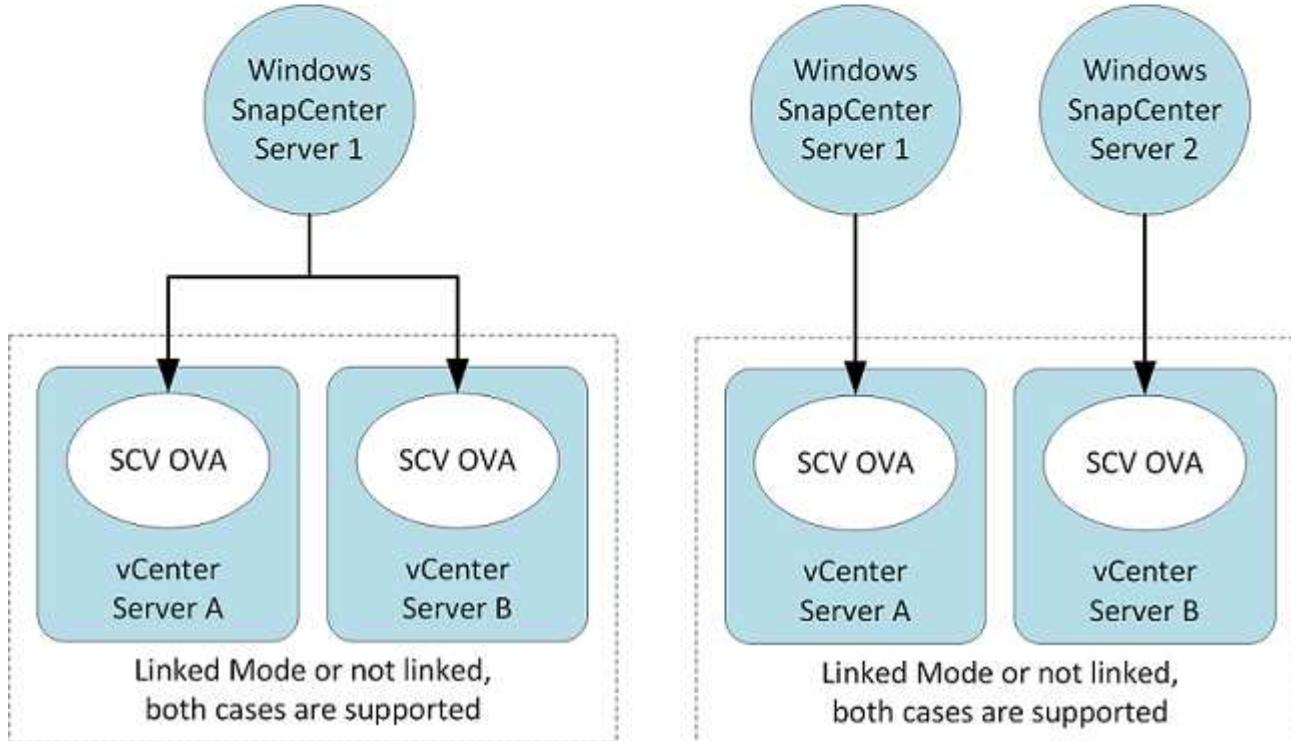
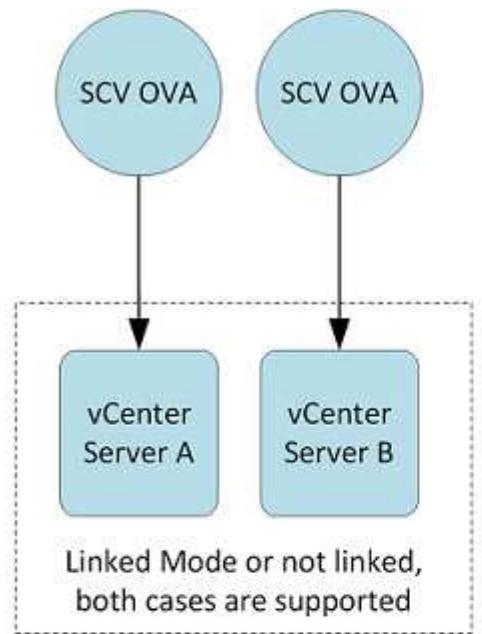
接続とポートの要件

ポートのタイプ	事前設定されたポート
VMware ESXi Serverのポート	443 (HTTPS)、双方向のゲストファイルリストア機能では、このポートが使用されます。
SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのポート	8144 (HTTPS)、双方向ポートは、VMware vSphereクライアントとSnapCenterサーバからの通信に使用されます。8080 bidirectionalこのポートは、仮想アプライアンスの管理に使用されます。 注：SnapCenterにSCVホストを追加するためのカスタムポートがサポートされています。
VMware vSphere vCenter Serverのポート	VVol VMを保護する場合は、ポート443を使用する必要があります。

ポートのタイプ	事前設定されたポート
ストレージクラスタまたはStorage VMポート	443 (HTTPS)、双向80 (HTTP)、双向ポートは、仮想アプライアンスとStorage VMまたはStorage VMを含むクラスタの間の通信に使用されます。

サポートされる構成

各プラグインインスタンスでサポートされるvCenter Serverは1つだけです（リンクモード）。ただし、次の図に示すように、複数のプラグインインスタンスで同じSnapCenterサーバをサポートできます。



RBACケンケンノヒツヨウ

vCenter管理者アカウントには、次の表に示す必要なvCenter Privilegesが必要です。

この操作を実行するには ...	次の vCenter 権限が必要です ...
vCenterでSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入して登録する	拡張子：拡張子を登録します
SnapCenter Plug-in for VMware vSphereをアップグレードまたは削除する	エクステンション <ul style="list-style-type: none">拡張機能の更新拡張機能の登録解除
SnapCenterに登録されたvCenterクレデンシャルユーザアカウントに、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereへのユーザアクセスの検証を許可する	sessions.validate.session
ユーザにSnapCenter Plug-in for VMware vSphereへのアクセスを許可する	SCV Administrator Backup SCV Guest File Restore SCV Restore SCV View 権限が vCenter ルートで割り当てられている必要があります。

AutoSupport

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereは、プラグインのURLなど、使用状況を追跡するための最小限の情報を提供します。AutoSupportには、AutoSupportビューアに表示されるインストール済みプラグインの表が含まれています。

ONTAP Privilegesが必要です

必要な最小ONTAP Privilegesは、データ保護に使用するSnapCenterプラグインによって異なります。



SnapCenter Plug-in for VMware (SCV) 5.0以降では、SCVへのカスタマイズされたロールベースアクセスを持つすべてのONTAPユーザに対して、HTTPおよびONTAPIタイプのアプリケーションをユーザのログイン方法として追加する必要があります。これらのアプリケーションにアクセスできないと、バックアップは失敗します。ONTAPユーザのログイン方法の変更を認識するには、SCVサービスを再起動する必要があります。

必要な最小ONTAP権限

すべてのSnapCenterプラグインに必要な最小権限は次のとおりです。

フルアクセスコマンド：最小ONTAP Privileges。
イベント生成- AutoSupportログ
job history show job show job stop
lun lun create lun delete lun igrup add lun igrup create lun igrup delete lun igrup rename lun igrup rename lun igrup show lun mapping add-reporting-nodes lun mapping create lun mapping remove-reporting-nodes lun mapping show lun modify lun move-in-volume LUN offline LUN online lun persistent-reservation clear lun resize lun serial lun show をクリックします

```
snapmirror list-destinations snapmirror policy add-rule snapmirror policy modify -rule snapmirror policy show  
snapmirror restore snapmirror show -history snapmirror update snapmirror update-ls-set
```

バージョン

```
volume clone create volume clone show volume clone split start volume clone split status volume clone split  
stop volume create volume delete volume destroy volume file clone create volume file show -disk-usage  
volume offline volume online volume managed-feature SnapLock volume modify volume qtree create volume  
qtree delete volume qtree modify volume qtree show volume restrict volume snapshot delete volume  
snapshot modify -expiry-time volume snapshot rename volume snapshot restore volume snapshot restore
```

```
vserver cifs vserver cifs share create vserver cifs shadowcopy show vserver cifs share show vserver cifs  
share show vserver cifs shadowcopy vserver cifs share show vserver export-policy vserver export-policy rule  
create vserver export-policy rule show vserver export-policy show vserver export-policy show vserver iscsi  
vserver iscsi connection show vserver nvme subsystem
```

読み取り専用コマンド：最小ONTAP Privileges

```
cluster identity show network interface show vserver peer vserver show
```

フルアクセスコマンド：最小ONTAP Privileges

```
consistency-group storage-unit show
```

データSVMに関するロールを作成する場合は、_cluster identity show_cluster levelコマンドは無視してかまいません。



サポートされていないvServerコマンドに関する警告メッセージは無視してかまいません。

ONTAPに関するその他の情報

- SnapMirrorのアクティブ同期機能を使用するには、ONTAP 9.12.1以降のバージョンが必要です。
- 改ざん防止スナップショット（TPS）機能を使用するには、次の手順を実行します。
 - SANにはONTAP 9.13.1以降のバージョンが必要です。
 - NFSにはONTAP 9.12.1以降のバージョンが必要です。
- NVMe over TCPおよびNVMe over FCプロトコルを使用するには、ONTAP 9.10.1以降が必要です。



ONTAPバージョン9.11.1以降の場合、ONTAPクラスタとの通信にはREST APIを使用します。ONTAPユーザは、httpアプリケーションを有効にしておく必要があります。ただし、ONTAP REST APIで問題が見つかった場合は、設定キー「FORCE_ZAPI」を使用して従来のZAPIワークフローに切り替えることができます。構成APIを使用してこのキーを追加または更新し、trueに設定する必要がある場合があります。KB記事を参照してください。["RestAPIを使用してSCVの設定パラメータを編集する方法"](#)詳細についてはこちらをご覧ください。

vCenter Privilegesの最小要件

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入を開始する前に、最小限必要なvCenter Privilegesが揃っていることを確認してください。

vCenter Adminロールに必要なPrivileges

Datastore.PowerLocateSpace Datastore.Browse Datastore.Delete Datastore.FileManagement Datastore.Move Extension.Register Extensionの更新Host.Config.AdvancedConfig Host.Config.Resources Host.Config.Config.Settings Host.Config.Config.Storage VirtualVirtualVirtualVirtualVirtualVMHost.Local.CreateVM Host.Local.DeleteVM Network.ReconfigVM Network.Assign Resource.Assign Resource.Assign Resource.Assign Resource.Assign Resource.Assign Resource.Assign Resource.Config.Assign Resource.Config.VM Resource.Config.VM Resource.Config.Config.VM Resource.Config.VM Resource.Config.Datast.VM Resource.Config.Datast.Config.Datast.Datastoronymous仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンの仮想マシンのリソースのリソースの仮想マシンリソース

SnapCenter Plug-in for VMware vCenterに固有の必要な権限

* 特権 *	ラベル
netappscv.Guest.RestoreFile	ゲストファイルのリストア
netappSCV.Recovery.MountUnmount	マウント/アンマウント
netappSCV.Backup.DeleteBackupJob	リソースグループ/バックアップを削除
netappscv.Configure.ConfigureStorageSystems.Delete	ストレージシステムの削除
netappSCV： 視聴する	視聴する
netappscv.Recovery.RecoverVM	VMのリカバリ
netappSCV.Configure.ConfigureStorageSystems.AddUpdate	ストレージシステムを追加/変更
netappscv.Backup.BackupNow	今すぐバックアップ
netappscv.Guest： 設定	ゲストの設定
netappSCV.Configure.ConfigureSnapCenterServer	SnapCenterサーバの設定
netappSCV.Backup.BackupScheduled	リソースグループを作成

Open Virtual Appliance (OVA；オープン仮想アプライアンス) のダウンロード

Open Virtual Appliance (OVA) をインストールする前に、vCenterに証明書を追加します。.tarファイルにはOVA証明書とEntrustルート証明書と中間証明書が含まれており、証明書は証明書フォルダ内にあります。OVA環境は、VMware vCenter 7u1以上でサポートされます。

VMware vCenter 7.0.3以降のバージョンでは、Entrust証明書によって署名されたOVAは信頼されなくなりました。この問題を解決するには、次の手順を実行する必要があります。

手順

1. SnapCenter Plug-in for VMwareをダウンロードするには、次の手順を実行します。

- NetAppサポートサイトにログインします（ "<https://mysupport.netapp.com/products/index.html>" ）。
- 製品のリストから* SnapCenter Plug-in for VMware vSphere *を選択し、*最新リリースのダウンロード*ボタンを選択します。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのファイルを任意の場所にダウンロードし .tar ます。

2. tarファイルの内容を展開します。tarファイルには、ovaフォルダとcertsフォルダが含まれています。certs フォルダには、Entrustルート証明書と中間証明書が含まれています。

3. vSphere ClientでvCenter Serverにログインします。

4. [管理]>[証明書]>[証明書の管理]に移動します。

5. の横にある[追加]*を選択します。

- _certs_folderに移動します。
- Entrustルート証明書と中間証明書を選択します。
- 各証明書を一度に1つずつインストールします。

6. 証明書は*信頼されたルート証明書*の下のパネルに追加されます。証明書をインストールしたら、OVAを検証して導入できます。



ダウンロードしたOVAが改ざんされていない場合は、「* Publisher 」列に「 Trusted certificate *」と表示されます。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入

SnapCenterの機能を使用して仮想マシン上のVM、データストア、アプリケーションと整合性のあるデータベースを保護するには、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入する必要があります。

開始する前に

このセクションでは、導入を開始する前に実行する必要があるすべてのアクションを示します。



OVA環境は、VMware vCenter 7u1以上でサポートされます。

- 展開要件を必ず確認してください。
- サポートされているバージョンの vCenter Server を実行していることを確認します。
- vCenter Server 環境が構成され、セットアップされていることを確認します。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphere VM 用の ESXi ホストを準備します。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphere .tar ファイルをダウンロードします。
- vCenter Server インスタンスのログイン資格情報を取得します。
- 有効な公開キー ファイルと秘密キー ファイルを含む証明書を取得します。詳細については、"ストレージ証明書の管理"セクション。
- 展開中に問題が発生しないように、すべての vSphere クライアント ブラウザ セッションからログアウトして閉じ、ブラウザ キャッシュをクリアします。
- vCenter でトランスポート層セキュリティ (TLS) を有効にします。VMware のドキュメントを参照してください。

ださい。

- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereがデプロイされている vCenter 以外の vCenter でバックアップを実行する場合は、ESXi サーバ、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere、および各 vCenter が同じ時刻に同期されていることを確認してください。
- vVol データストア上の VM を保護するには、まずONTAP tools for VMware vSphereを導入します。サポートされているONTAPツールのバージョンについては、["NetApp Interoperability Matrix Tool"](#)。ONTAPツールは、ONTAPおよびVMware Web クライアント上のストレージをプロビジョニングおよび構成します。

vCenterと同じタイムゾーンでSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入します。バックアップスケジュールは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが導入されているタイムゾーンで実行されます。vCenterでは、vCenterが配置されているタイムゾーンのデータが報告されます。そのため、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereとvCenterが異なるタイムゾーンにある場合は、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereダッシュボードのデータがレポートのデータと同じでない可能性があります。

手順

1. VMware vCenter 7.0.3以降のバージョンの場合は、の手順に従って、["Open Virtual Appliance \(OVA; オープン仮想アプライアンス\) のダウンロード"](#) 証明書をvCenterにインポートします。
2. ブラウザで、VMware vSphere vCenterに移動します。



IPv6アドレスのHTML Web クライアントの場合は、ChromeまたはFirefoxを使用する必要があります。

3. VMware vCenter Single Sign-On * ページにログインします。
4. ナビゲータペインで、仮想マシンの有効な親オブジェクトであるインベントリオブジェクト（データセンター、クラスタ、ホストなど）を右クリックし、*[Deploy OVF Template]*を選択してVMware導入ウィザードを開きます。
5. .ovaファイルを含む.tarファイルをローカルシステムに展開します。[Select an OVF template*]ページで、.tar抽出フォルダ内のファイルの場所を指定します .ova。
6. 「* 次へ *」を選択します。
7. ページで、**VM**または**vApp**の一意の名前を入力し、導入先を選択して[次へ]*を選択します。

この手順では、ファイルをvCenterにインポートする場所を指定し .tar ます。VMのデフォルト名は、選択したファイルの名前と同じ .ova です。デフォルトの名前を変更した場合は、各vCenter Server VM フォルダ内で一意の名前を選択します。

VMのデフォルトの導入場所は、ウィザードを開いたインベントリオブジェクトです。

8. ページで、導入した**VM**テンプレートを実行するリソースを選択し、[次へ]*を選択します。
9. [詳細の確認]ページで、テンプレートの詳細を確認し .tar、*[次へ]*を選択します。
10. [ライセンス契約 *] ページで、[すべてのライセンス契約に同意します] のチェックボックスをオンにします。 *
11. [*ストレージの選択 *] ページで、導入した OVF テンプレートのファイルの保存場所と保存方法を定義します。
 - a. VMDKのディスクフォーマットを選択します。
 - b. VMストレージポリシーを選択します。

このオプションは、デスティネーションリソースでストレージポリシーが有効になっている場合にのみ使用できます。

c. 導入したOVAテンプレートを格納するデータストアを選択します。

構成ファイルと仮想ディスクファイルはデータストアに格納されます。

仮想マシンまたはvApp、および関連するすべての仮想ディスクファイルを格納できるサイズのデータストアを選択します。

12. [ネットワークの選択 *] ページで、次の操作を行います。

a. 送信元ネットワークを選択し、宛先ネットワークにマッピングします。

[Source Network]列には、OVAテンプレートで定義されているすべてのネットワークが表示されます。

b. セクションで、必要なIPアドレスプロトコルを選択し、[Next]*を選択します。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereは、1つのネットワークインターフェイスをサポートします。複数のネットワークアダプタが必要な場合は、手動で設定する必要があります。を参照してください " [技術情報アーティクル：「How to create additional network adapters」](#)。

13. [テンプレートのカスタマイズ] ページで、次の操作を行います。

a. [* Register to Existing vCenter* (既存の vCenter に登録)] セクションで、仮想アプライアンスの vCenter 名と vCenter クレデンシャルを入力します。

[vCenter username (vCenterユーザー名)] フィールドに、の形式でユーザー名を入力し `domain\username` ます。

b. Create SCV credentials * セクションにローカルクレデンシャルを入力します。

[Username] フィールドに、ローカルユーザ名を入力します。ドメインの詳細は入力しないでください。



指定したユーザ名とパスワードをメモしておきます。あとでSnapCenter Plug-in for VMware vSphereの設定を変更する場合は、これらのクレデンシャルを使用する必要があります。

c. maintユーザのクレデンシャルを入力します。

d. [ネットワークプロパティのセットアップ] セクションで、ホスト名を入力します。

i. [IPv4ネットワークプロパティの設定] セクションで、IPv4アドレス、IPv4ネットマスク、IPv4ゲートウェイ、IPv4プライマリDNS、IPv4セカンダリDNSなどのネットワーク情報を入力します。およびIPv4検索ドメイン。

ii. [IPv6ネットワークプロパティの設定] セクションで、IPv6アドレス、IPv6ネットマスク、IPv6ゲートウェイ、IPv6プライマリDNS、IPv6セカンダリDNSなどのネットワーク情報を入力します。およびIPv6検索ドメイン。

必要に応じて、IPv4またはIPv6アドレスのフィールド、あるいはその両方を選択します。IPv4アドレスとIPv6アドレスの両方を使用する場合は、そのうちの1つにのみプライマリDNSを指定する必要があります。



ネットワーク設定として DHCP を使用する場合は、これらの手順を省略し、[Setup Network Properties] セクションのエントリを空白のままにしておくことができます。

a. * Setup Date and Time * で、vCenter が配置されているタイムゾーンを選択します。

14. [選択内容の確認]ページで、ページを確認して*[完了]*を選択します。

すべてのホストにIPアドレスを設定する必要があります（FQDNホスト名はサポートされません）。導入処理では、導入前に入力した内容は検証されません。

OVFのインポートタスクと導入タスクが完了するまでの間、[Recent Tasks]ウィンドウで導入の進捗状況を確認できます。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入が完了すると、Linux VMとして導入されてvCenterに登録され、VMware vSphere Clientがインストールされます。

15. SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入したVMに移動し、[概要]*タブを選択し、[電源オン]*ボックスを選択して仮想アプライアンスを起動します。

16. SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの電源投入時に、導入したSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを右クリックし、[ゲストOS]*を選択して[VMwareツールのインストール]*を選択します。

VMware Toolsは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが導入されているVMにインストールされます。VMware Toolsのインストールの詳細については、VMwareのドキュメントを参照してください。

導入が完了するまでに数分かかることがあります。SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの電源がオンになると導入が成功したことが通知され、VMware Toolsがインストールされ、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereへのログインを求める画面が表示されます。初回リブート時に、ネットワーク設定をDHCPから静的に切り替えることができます。ただし、スタティックからDHCPへの切り替えはサポートされていません。

画面にはSnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入先のIPアドレスが表示されます。IPアドレスをメモしておきます。SnapCenter Plug-in for VMware vSphere の設定を変更する場合は、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere管理ユーザー インターフェイスにログインする必要があります。

17. デプロイメント画面に表示された IP アドレスとデプロイメント ウィザードで指定した資格情報を使用してSnapCenter Plug-in for VMware vSphere管理ユーザー インターフェイスにログインし、ダッシュボードでSnapCenter Plug-in for VMware vSphereが vCenter に正常に接続され、有効になっていることを確認します。

フォーマットを使用する `https://<appliance-IP-address>:8080` 管理ユーザー インターフェイスにアクセスします。

導入時に設定したadminユーザ名とパスワード、およびメンテナンスコンソールを使用して生成されたMFAトークンを使用してログインします。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが有効になっていない場合は、を参照してください "VMware vSphere Client Serviceを再起動します。"。

ホスト名が「UnifiedVSC/SCV」の場合は、アプライアンスを再起動します。アプライアンスを再起動してもホスト名が指定したホスト名に変更されない場合は、アプライアンスを再インストールする必要があります。

終了後

必要なを完了する必要があります ["導入後の処理"](#)。

導入後に必要な処理と問題

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入したら、インストールを完了する必要があります。

導入後に必要な処理

SnapCenterを初めて使用する場合は、Storage VMをSnapCenterに追加してからデータ保護処理を実行する必要があります。Storage VMを追加するときは、管理LIFを指定してください。クラスタを追加してクラスタ管理LIFを指定することもできます。ストレージの追加については、を参照して ["ストレージの追加"](#)ください。

トウニユウニカンスルモンタイ

- 仮想アプライアンスの導入後、ダッシュボードの * Backup Jobs * タブに次のような状況でロードされないことがあります。
 - IPv4アドレスを実行しており、SnapCenter VMware vSphereホストのIPアドレスが2つある。その結果、ジョブ要求はSnapCenterサーバで認識されないIPアドレスに送信されます。この問題を回避するには、使用するIPアドレスを次のように追加します。
 - SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入先に移動します。
`/opt/netapp/scvservice/standalone_aegis/etc`
 - ネットワーク-interface.propertiesファイルを開きます。
 - `network.interface=10.10.10.10`フィールドに、使用するIPアドレスを追加します。
 - NICが2つあります。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入後も、vCenter for SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのMOBエントリに古いバージョン番号が表示されることがあります。これは、vCenterで他のジョブが実行されている場合に発生することがあります。時間の経過とともに、vCenterによってエントリが更新されます。

これらの問題のいずれかを修正するには、次の手順を実行します。

- ブラウザのキャッシュをクリアして、ユーザーインターフェイスが正しく動作しているかどうかを確認します。

問題が解決しない場合は、VMware vSphere Client Serviceを再起動します

- vCenterにログインし、ツールバーの*を選択し、[SnapCenter Plug-in for VMware vSphere]*を選択します。

認証エラーを管理します。

adminクレデンシャルを使用しないと、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入後または移行後に認証エラーが表示されることがあります。認証エラーが発生した場合は、サービスを再起動する必要があります。

手順

1. 次の形式を使用して、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere管理ユーザーインターフェイスにログオンします。<https://<appliance-IP-address>:8080>。管理者のユーザ名、パスワード、およびMFAトークンの情報を使用してログインします。MFAトークンはメンテナンスコンソールから生成できます。
2. サービスを再起動します。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereをSnapCenter Serverに登録

SnapCenter（仮想化されたデータベースとファイルシステムのアプリケーションベースの保護ワークフロー）でVMDKを介したアプリケーションワークフローを実行する場合は、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereをSnapCenter Serverに登録する必要があります。

開始する前に

- SnapCenterサーバ4.2以降を実行している必要があります。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入して有効にしておく必要があります。

タスクの内容

- SnapCenterユーザーインターフェイスを使用して「vsphere」タイプのホストを追加し、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereをSnapCenter Serverに登録します。

ポート8144は、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere内の通信用に事前定義されています。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの複数のインスタンスを同じSnapCenter Serverに登録することで、VMでのアプリケーションベースのデータ保護処理をサポートできます。同じSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを複数のSnapCenter Serverに登録することはできません。

- vCenterがリンクモードの場合は、vCenterごとにSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを登録する必要があります。

手順

1. SnapCenterユーザーインターフェイスの左側のナビゲーションペインで、ホストを選択します。
2. 上部で [Managed Hosts] タブが選択されていることを確認し、仮想アプライアンスのホスト名を見つけて、SnapCenterサーバから解決されることを確認します。
3. [追加]*を選択してウィザードを開始します。
4. [Add Hosts] ダイアログ・ボックスで次の表に示すようにSnapCenterサーバに追加するホストを指定します

このフィールドでは...	操作
ホストタイプ	ホストのタイプとして「* vsphere *」を選択します。
ホスト名	仮想アプライアンスのIPアドレスを確認します。
クレデンシャル	導入時に指定したSnapCenter Plug-in for VMware vSphereのユーザ名とパスワードを入力します。

5. [送信]を選択します。

追加されたVMホストは、[Managed Hosts]タブに表示されます。

6. 左側のナビゲーションペインで、[設定]*を選択し、[クレデンシャル]タブを選択し、[追加]*を選択して仮想アプライアンスのクレデンシャルを追加します。
7. SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入時に指定したクレデンシャル情報を入力します。



[Authentication]フィールドで[Linux]を選択する必要があります。

終了後

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのクレデンシャルが変更された場合は、SnapCenterの[Managed Hosts]ページを使用してSnapCenterサーバでの登録を更新する必要があります。

SnapCenter VMware vSphere Clientにログインします。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入すると、vCenterにVMware vSphereクライアントがインストールされ、他のvSphereクライアントとともにvCenter画面に表示されます。

開始する前に

vCenterでTransport Layer Security (TLS) が有効になっている必要があります。VMwareのドキュメントを参照してください。

手順

1. ブラウザで、VMware vSphere vCenterに移動します。
2. VMware vCenter Single Sign-On * ページにログインします。



[Login]ボタンを選択します。VMwareの既知の問題のため、ENTERキーを使用してログインしないでください。詳細については、ESXi Embedded Host Clientの問題に関するVMwareのドキュメントを参照してください。

3. [VMware vSphere Client]ページで、ツールバーの[メニュー]を選択し、* SnapCenter Plug-in for VMware vSphere *を選択します。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。